

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	天崇寺山門災害復旧工事 (上越市文化財 昭和50年3月27日指定)	寺町二丁目 (高田区)	宗教法人天崇寺	577千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

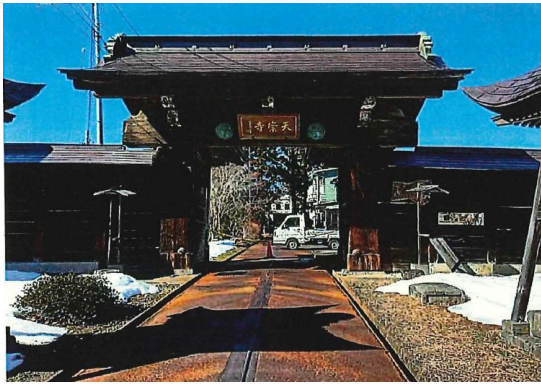
<歴史的建造物等の概要>

天崇寺は、明治20年(1887年)に長恩寺境内に極楽寺本堂を移築して合併してできた寺院で、寺の名前は、高田姫勝子(徳川秀忠の娘、松平光長の母)の法名「天崇院」からとられ、境内には、高田姫とその子の亀姫(初代高松宮妃)の墓があります。

この山門は、越後中将家の菩提寺として知られている旧長恩寺の山門です。記録によれば延宝2年(1674年)の建築で、建築年代がわかるものとしては市内最古の山門です。正面には、松平家が使用する三葉葵の紋章があしらわれています。この門は高麗門と呼ばれる、主に城門に用いられる形式で、その特徴として、開けた扉に雨があたらないように袖屋根が付けられています。扉も大きく、高さ3.23メートル、幅1.83メートルもあります。一説に高田城蹴出門と同型とも伝えられています。

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した天崇寺 山門(上越市文化財)について、柱や梁の開き、歪みを修復し、支え木により山門の補強を行いました。



▲被災後 全景



▲支え木による補強



▲地震の揺れでズレた門柱



▲修復後

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	国府別院本堂地震災害復旧工事 (上越市文化財 昭和56年3月26日指定)	国府一丁目 (直江津区)	国府別院	1,290千円

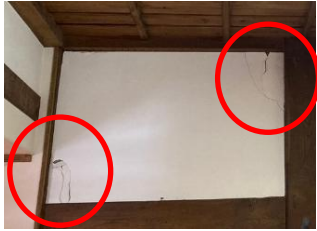
歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>
国府別院は、親鸞が関東へ出立されるまで恵信尼や子どもたちとともに暮らしたとされる竹ヶ前草庵(たけがはなそうあん)の跡地に建立されました。
本堂は、文化2年(1805年)の建築で、入母屋造の金属葺、柱等には樺材が多様されています。正面、奥行きとも約16メートル(方9間)の大きさです。もともとは、正面8間の本堂として建てられましたが、強風のあたる北側に、後世に一間分を増築して現在の形になったと推定されます。
本尊の安置されている内陣は、天井だけでなく円柱や柱上で天井を支える斗供(ときょう)まで極彩色の華やかな装飾が施されており、このように荘厳(しょうごん)されることはまれで、市内では最も美しい寺院建築の一つといえます。
また、須弥壇(しゅみだん)に本尊である阿弥陀如来像と、親鸞像とを並べて安置することも大変珍しく、特色のある礼拝(らいはい)形態を示します。

<事業概要>
令和6年能登半島地震で被災した国府別院 本堂(上越市文化財)について、向拝石積や内陣の漆喰塗り壁、基礎クラックなどの補修を行いました。



▼内陣の漆喰塗り壁 亀裂



▲内陣の漆喰塗り壁 亀裂



▲補修後



▲向拝石積 剥離



▲補修後

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	岩乃原葡萄園第二號石蔵地震破損部補強工事 (上越市文化財 平成2年3月5日指定)	北方 (高土区)	株式会社 岩の原葡萄園	858千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

日本におけるワイン醸造の基礎を築いた川上善兵衛が、ワインの醸造と貯蔵のために自ら研究を重ねて設計した石蔵です。明治31年(1898年)に完成しました。

石蔵の隣には、雪室(ゆきむろ)を設け、室からの冷気で石蔵内の温度を一定に保つよう工夫されています。また、8月から10月までの仕込み時期には発酵樽のまわりに雪柱を用いて発酵温度の一定化にも成功しています。これにより良質なワインの醸造が可能となりました。

川上善兵衛は、明治23年(1890年)に自宅の庭にぶどうを植え、ワインの醸造に取り組みました。

当時、日本のワイン醸造技術は手探りの状況で、いくつものワイン会社が醸造に失敗しましたが、善兵衛は、欧米の専門書をもとに、雪室を利用した石蔵によって、ワイン醸造を成功に導きました。

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した岩乃原葡萄園第二號石蔵(上越市文化財)について、南西側柱の破損部等の補強工事を行いました。



◀ 着工前 (仮補強)

▼ 竣工後



事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	料亭宇喜世本館・北門災害復旧工事 (国登録有形文化財 平成20年11月10日登録)	仲町三丁目 (高田区)	株式会社 ランドスタッフ	7,500千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

本館は木造2階一部3階建の桧瓦葺一部鉄板葺、東西37m南北14mで、北面西端に突出部を設けるL字型の平面です。北面中央西寄りには唐破風造屋根の玄関を付けます。2階の153畳に及ぶ大広間や、部屋ごとに意匠を違える3階客間などがあります。近代料亭建築の一例です。

北門は、本館玄関の正面、大門通りに面して建ち、茅葺屋根をもつ間口4.3mの腕木門です。柱や楣、束等は八角断面で、名栗仕上げです。腕木や桁は角材、軒には磨き丸太の半割を並べます。扉は両開板戸。茅葺の落ち着いた佇まいになり、料亭の表構えを特徴づけています。

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した料亭宇喜世本館・北門(国登録有形文化財)について、構造・隙間・ずれの修繕、北門の補強工事を行いました。



▲松の間 床の間 被災後



▲松の間 床の間 補修後



▲北門 被災後



▲北門 補強後

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	幸村家住宅 地震被害修繕工事 (国登録有形文化財 平成24年2月23日登録)	仲町六丁目 (高田区)	個人	2,829千円

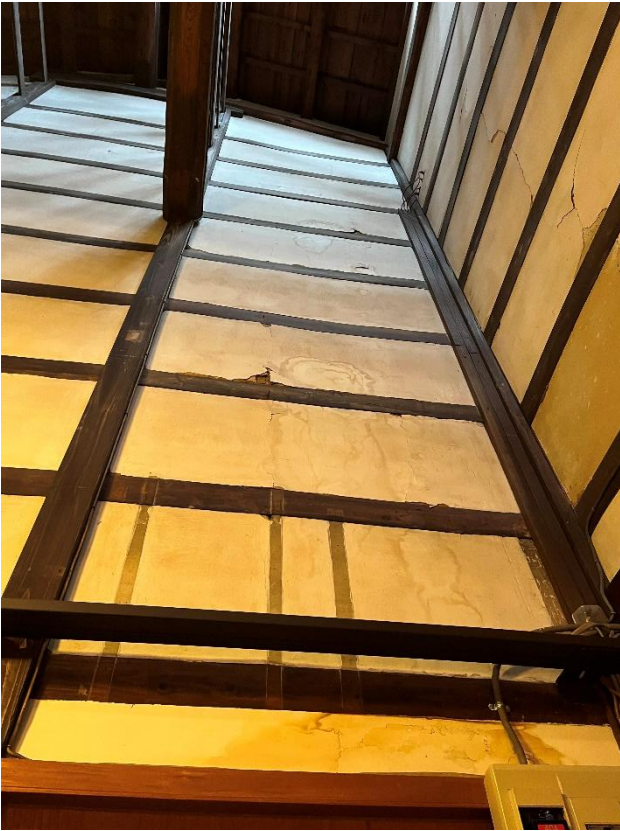
歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

木造2階建、建築面積80平方メートル、切妻造棧瓦葺で鑄鉄製の雁木を持ちます。トオリニワ沿いにミセ、チャノマ、ザシキを並べ、チャノマ上部に組む井桁状の梁組と5重の小屋貫を通して高窓から採光する構成は、高田における町家の内部空間の特徴をよく示しています。

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した幸村家住宅 主屋(国登録有形文化財)について、吹き抜け部分の壁補修や西側屋根瓦の補修工事を行いました。



▲建物内部 吹き抜け部分 被災後



▲建物内部 吹き抜け部分 補修後

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	高田別院大門肘木修理工事 (国登録有形文化財 平成27年8月4日登録)	寺町二丁目 (高田区)	宗教法人 真宗大谷派 高田別院	198千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

＜歴史的建造物等の概要＞

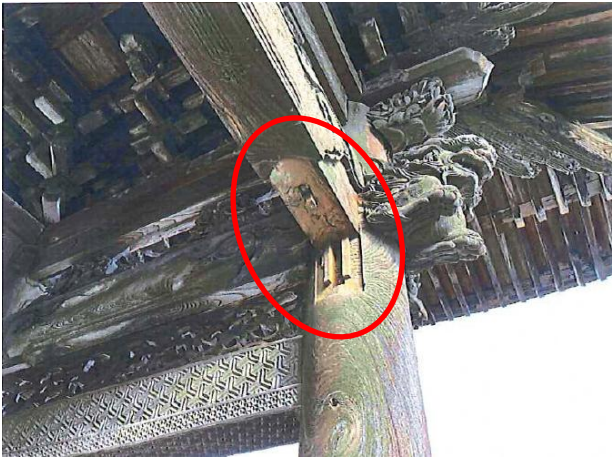
本堂正面、道路に面して建つ大型の三間三戸八脚門です。禅宗様の尾垂木付三手先組物で軒を大きく張り出し、入母屋造の大屋根を支持しています。軸部はケヤキの素木造とし、随所に精緻な彫刻や地紋彫を施して賑やかに飾るなど、高い大工技術を示しています。別院に相応しい大門です。

＜事業概要＞

令和6年能登半島地震で被災した高田別院大門(国登録有形文化財)について、ズレたり落下した肘木部分の修繕を行いました。



◀ 被災後 全景



▲ 落下した肘木



▲ 補修後

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	保阪家住宅道具蔵修繕事業 (国登録有形文化財 令和6年3月6日登録)	大字戸野目 (津有区)	個人	1,164千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

主屋の北に建つ家財蔵。切妻造妻入で並列した土蔵2棟に棧瓦葺の置屋根を一体で架けた大規模なものです。外壁は漆喰塗仕上とし、腰は下見板を張っています。南面に戸口を設けて下屋を付し、各棟各階1室。室中央にそれぞれ独立柱を2本立てます。大型で重厚な外観の土蔵です。

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した保阪家住宅道具蔵(国登録有形文化財)について、南北外壁の被災部分を撤去し下地補修と漆喰塗、保護塗装、蔵内部の木工事を行いました。



▲漆喰壁 剥離（南側）



▲漆喰壁 剥離（北側）



▲漆喰壁 亀裂（北側）



▲蔵 2階 壁材 外れ



▲ 竣工後（北側）

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	白田家住宅主屋修復工事 (国登録有形文化財 平成26年4月25日登録)	頸城区森本 (頸城区)	個人	7,500千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

敷地中央に東面し、正面南寄りに入母屋造の玄関を張り出しています。主体部北寄りの床上部は居室を三列に配し、正側面に幅広の土縁を廻らせています。明治初期の大型民家の骨格を保ちつつ、ガラス建具の多用や座敷の造作などに大正期の洗練さが窺える、上質な近代和風住宅です。



▲ゲンカンノマ 南面 被災後



▲ゲンカンノマ 南面 修繕後

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した白田家住宅主屋(国登録有形文化財)について、主屋外部木工事、内部内装表具の修繕を行いました。



▲ドイン（北縁側）丸窓 被災後



▲ドイン（北縁側）丸窓 修繕後

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	瀧本家住宅離れ「懷徳亭」修復工事 (国登録有形文化財 平成24年8月13日登録)	頸城区百間町 (頸城区)	個人	1,762千円

歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

敷地の南西寄りに、池に北面して建っています。木造平屋建、建築面積133平方メートル、入母屋造棧瓦葺で、庭側に下屋を廻らしています。12畳半の主室は、大ドコを備えて折上格天井を張り、東に前室、北に畳廊下を配しています。庭園と調和した落ち着いた雰囲気をもつ離れです。

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した瀧本家住宅離れ「懷徳亭」(国登録有形文化財)について、耐震診断及び耐震補強設計を行い、また、冬期降積雪のための下屋補強仮設工事を行いました。



▲北側 下屋 被災後



▲北側 下屋 補強仮設（外部）



▲北側 下屋 補強仮設（内部）

事業年度	事業名	所在地	補助対象者	補助金交付額
令和6年度	旧酢屋呉服店 能登半島地震による災害復旧工事 (国登録有形文化財 令和4年10月31日登録)	中央三丁目 (直江津区)	個人	7,499千円

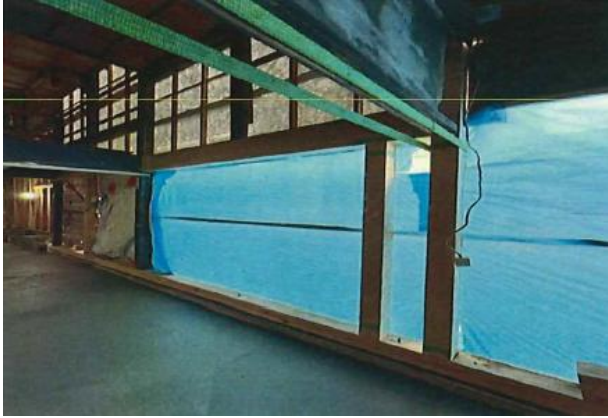
歴史的建造物等の概要／事業概要／活用状況

<歴史的建造物等の概要>

直江津の中町通に西面する呉服店の店舗兼住宅です。土蔵が通りから後退するため、店舗正側面の入母屋造、軒の出桁造、霧除庇の豪壮な外観を見せています。正面雁木、内蔵が面する茶の間吹抜は雪国らしい構成となっており、2階20畳座敷では、お客を招いて直江津の祇園祭を高欄越しに観覧していました。



▲内部 工事後



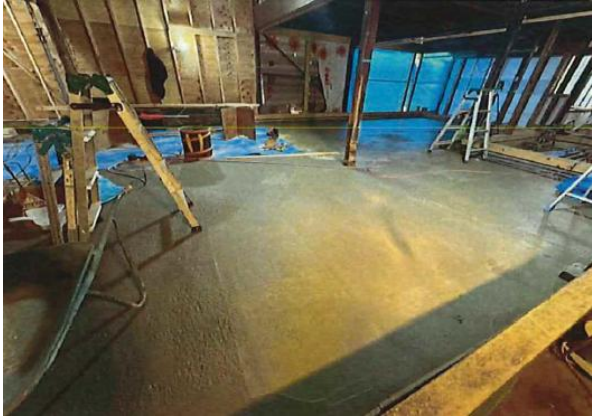
▲内部 工事後

<事業概要>

令和6年能登半島地震で被災した旧酢屋呉服店店舗兼主屋(国登録有形文化財)について、外部基礎工事、内部基礎、床下土間工事、建物不陸調整、根傾き調整、ウラニカイ屋根葺き替え、内部耐力壁造作工事などを行いました。



▲ウラニカイ 工事後



▲内部 工事後